



はぐ便り

2024年
11月号
【第116号】

子どもたちを『認める』・『共感する』子育てへ

子どもも大人も“褒められる”と“嬉しい”ですよね。しかし毎日、「すごいね!」、「えらいね!」と理由なく褒めたり、勉強で「100点とったね!」、かけっこで「一番だったね!」と、結果を褒めていませんか?理由なく口ぐせのように褒めていると、「こんな程度でいいんだ」と努力できない子どもになってしまうかもしれません。また、良い結果だけを声に出して褒めたり、他の子と比べて評価したりすると、結果にこだわる子になってしまう、努力をして成し遂げることの大切さを認識できないまま成長してしまうかもしれません。褒めすぎると承認欲求が強くなり、褒められるために行動し、褒められないと何もやらない子になってしまう可能性もあります。

子どもに「見て!」と言われたら一緒に見てみる、チャレンジ精神や過程を評価する、どんな結果であっても“その子自身の存在を認める”ことを意識した『認める』・『共感する』子育てを取り入れてみましょう。

日常のこんなことから…



ご飯を残さず食べた
→「お皿がきれい
うれしい!」

残さず
きれいに食べたね

ごちそうさま
でした

本当にすごいこと、
努力してがんばった時
→「やったね、おめでとう!」
「今日は美味しい物を
食べよう!」
と一緒に喜ぶ。

沢山勉強した
成果が出たね!



着替えができた
→「パパのお手伝いなしで、
自分でできたね!」

お手伝いなしで
靴下履けたね!



かっこいい
写真撮ったね。



その他にも

- 運動が苦手
→「苦手な鉄棒、練習何回もがんばったね、前回りもう少しできそうだよ。」
- 間違った行動をした
→「こうだったんだね」と気持ちに寄り添う言葉を掛けた上で、「でもこういうことはいけないよ」と伝える。

ブロックで作品を作った
→「見ていること、
気づいていることを示す」

私は秘密主義の娘から学校の様子を半分も聞き出せません。先月の学習発表会もプログラムは渡されましたが、役やセリフの内容はヒミツにされたままでした。いざ当日、何も考えずに観に行ったところ、大変感動しました。帰宅後の娘への第一声は「感動したよ!練習がんばったね!」でした。宿題の日記には、先生と子どもたちの感動作戦が成功したことがこっそり書かれていました。(筆者談)



盛岡市読み聞かせボランティア研修会 家庭教育研修会はぐ講座②

のお知らせ

日時: 令和7年2月5日(水)
10:00~12:00

会場: 盛岡市都南公民館 小ホール
講師: 岩手県立県南青少年の家
所長 佐藤 敦士 氏

『くらうん・しゅがー』として、
沿岸の被災地を中心に県内各地での
読み聞かせで活躍中です!

※詳細は12月15日発行の『広報もりおか』をご覧ください。



音読を
聞きつづける
夕ご飯



盛岡市家庭教育情報通信『はぐ便り』2024年11月号
【第116号】令和6年11月26日発行
発行者・問合せ: 盛岡市教育委員会 生涯学習課
住所: 盛岡市津志田14-37-2 TEL: 019-639-9046
E-mail: edu.sgs@city.morioka.iwate.jp

